

調査概要 水月湖における年縞の掘削

令和4年3月1日
福井県年縞博物館

◆調査期間

令和4年3月18日（金）～21日（月）

18日 13:00～17:00 やぐらの設置、年縞掘削

19日 9:00～17:00 年縞掘削

20日 9:00～17:00 年縞掘削、やぐらの撤収

21日 9:00～12:00 予備日

※天候により中止や時間変更の可能性あり

※各日、掘削後に陸上で堆積物の確認作業実施予定

◆調査参加者

北場育子（立命館大学古気候学研究センター・副センター長／准教授）

中川 毅（立命館大学古気候学研究センター・センター長／教授）

那須浩郎（岡山理科大学基盤教育センター・准教授）

大森貴之（東京大学総合研究博物館・特任研究員）

倉橋一気（立命館大学古気候学研究センター・客員研究員）

長屋憲慶（福井県年縞博物館・学芸員）

○協力：海山漁業協同組合

○共同研究機関：京都大学

◆研究目的

早瀬川水系水月湖の湖底にある年縞堆積物には、放射性炭素年代測定と年縞計数によって世界で最も正確な年代目盛りが与えられている。本研究調査は、同堆積物を新たに採取し、年縞に含まれる花粉化石の放射性同位体元素を測定し、過去に太陽で発生したスーパーフレアの痕跡を探索することを目的とする。

◆調査方法

- ・ 水月湖の中心部（水深約34m；作業予定カ所1）および水深約27mの地点（作業予定カ所2）において実施（図1）。
- ・ 湖面にフロート（3m×3m）を浮かべ錨を下ろしてやぐらを組む。（図2）。
- ・ ピストン式サンプラー（人力）による湖底堆積物の採取を行う。最大掘削深度は8mを想定（図3）。

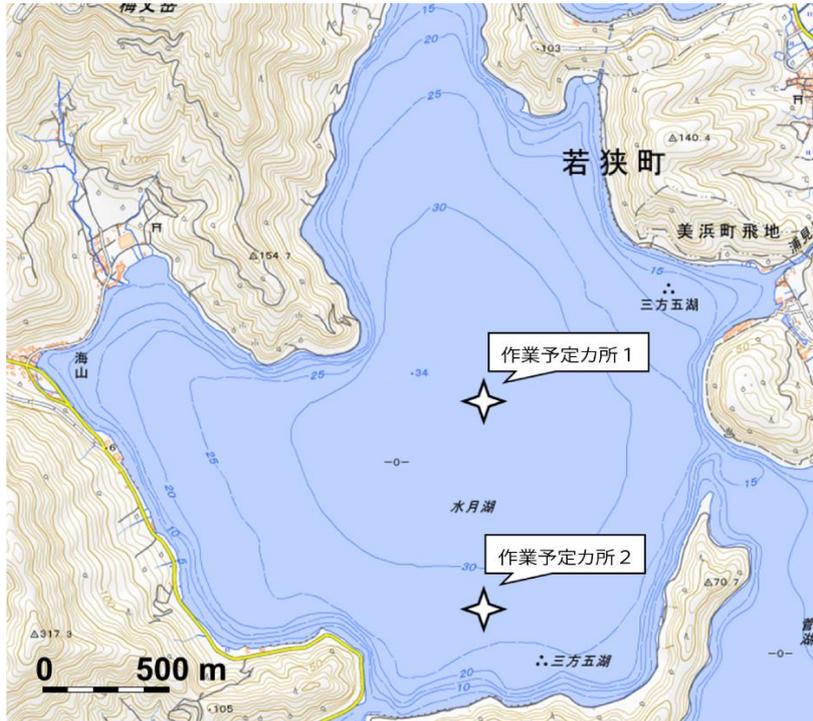


図1 作業予定力所（2地点）

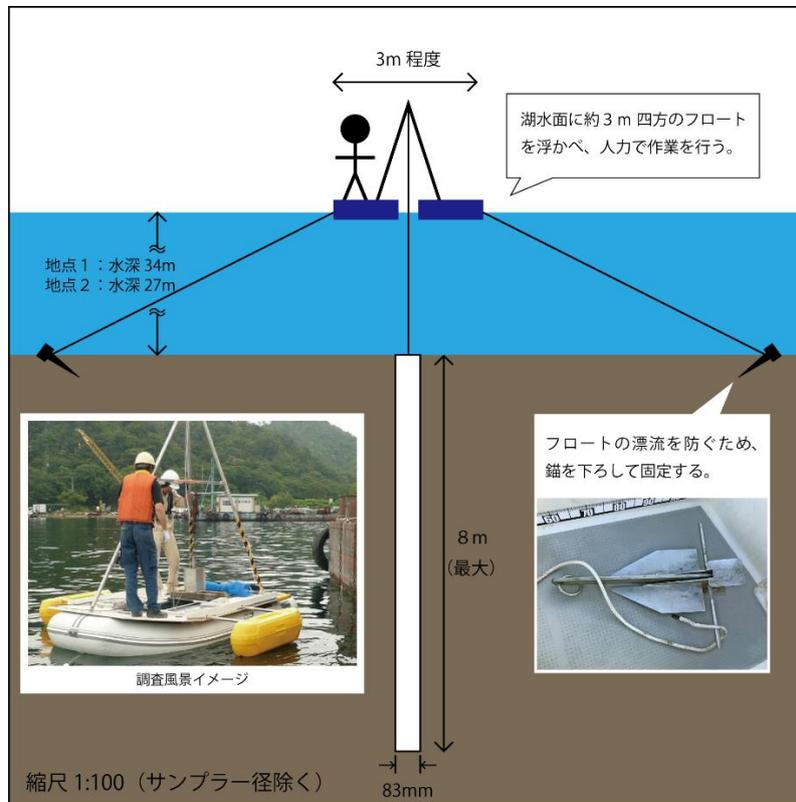


図2 掘削方法模式図

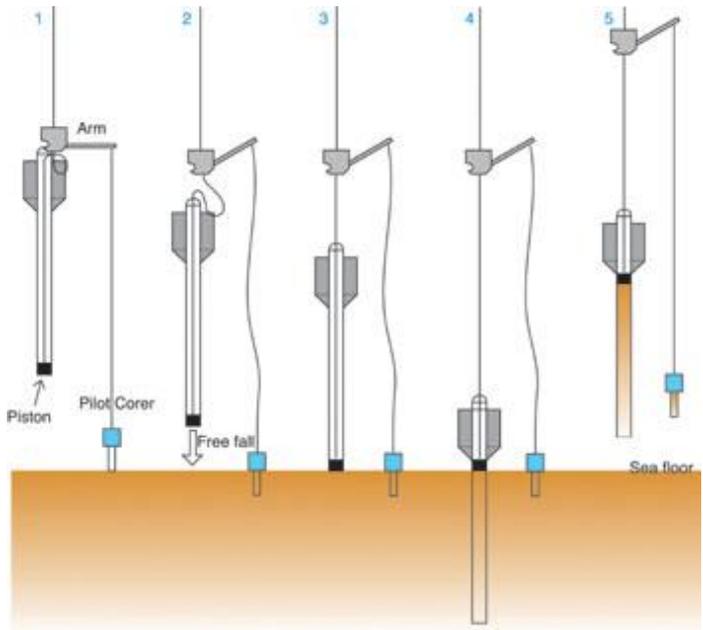
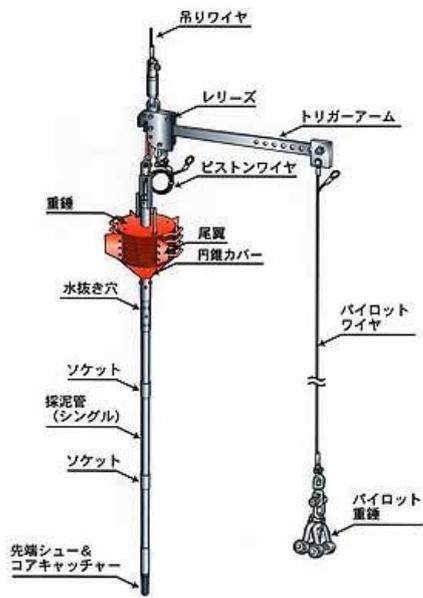


図3 掘削に用いるサンプラー
 (重りのついたパイプを重力落下させて湖底に打ち込み堆積物を採取)

以上